

新しい市場のつくりかた

第7章 価値のエコシステムをデザインせよ

第8章 ステータスと仲間をつくれ

第9章 ビジネスの外側に目を向けよ

モノやサービスという商品の価値とは、社会全体との関係で決まる。
その社会全体との関係性はちょうど生態系のように分析できる。

- ワイングラスの口がすぼまった←ワイン瓶の栓がコルクになった。
＝商品というのは、もっと大きな「暮らし」という製品の一部、部品でしかない。
- 岩手のかまどをケニアに指導→暮らし全体に波及(燃料節約、乳死亡率減少、..)
＝暮らしを支えるモノや知識は相互補完的に組み合わせられているエコシステムである。
- 大阪ガスのガラストップコンロ(暮らし方の異種格闘技戦):
ガス機器メーカー同士の競争は性能・価格の競争
⇔ガス機器メーカーと電気機器メーカーの競争は暮らし方の便利さが争点
＝社会生態の構想、言うなれば文化をきちんと設計するという課題が前提となる。
- 「暮らしのデザインから考える」というアプローチは、文化人類学の問題意識に近い。
- 小林一三(しあわせ構想):
商品で構成される社会のエコシステム全体をデザインする、エコシステムを丸ごと魅力あるものとして、設計し実現する戦略を実現した経営者。

⇒企業組織のトップ本人が積極的に価値のエコシステムのデザインを考えるべき。

第8章 ステータスと仲間をつくれ

消費者が商品に求める価値の重点が移り変わっていく。商品が顧客に記号として選好される、その記号としての価値を備えさせるにはどうするか？

- 下町で生まれた皮のストラップ：
喫茶店での風俗嬢の愚痴をヒントに製品化。
- 信長の茶器の「物語性」：
財産や権力以外のステータスという報酬を生み出すことに成功。
- 私たちが豊かになって最後に消費するようになったのは、商品のシンボル性、連想されるドラマ、物語の価値である。
- ラグジュアリーに権威を付与する役割(???)
貴族→ハリウッドスター(プリウス)、白人の文化人(ジャズ音楽)、UCLA学生(ジーンズ)
- HDJ(ハーレーダビッドソンジャパン)の躍進
(今さらという気もしますが…)

⇒商品の社会的機能を視野に入れているか？(商品のユーザーが良い関係の友達を見つけているか？その手伝いが出来ているか？)

第9章 ビジネスの外側に目を向けよ

企業が組織原理を異にする行政組織や教育機関と交流することで、商品開発に成功した事例紹介(日本の産業の活路の一つ)

- 内田洋行のパルスチェア：
脳性まひなどの重症身体変形をもつ方達のための車いすの標準化開発など、シーティングで最も難しい人たちへの設計研究アプローチの知見と20余年の姿勢保持外来の臨床経験に基づき、産官学連携でオフィスチェアに展開。
- 繊細さが顕在化させる問題の本質：
椅子(商品)に潜在している問題点に対して、健常者(「鈍い」使用者)は気づかないのに対し、障害者(「繊細な」使用者)は適応し切れず、結果として改善点が見えやすくなる。
- お金で買えない情報：
「椅子は何のためにあるのか」というプロダクトの本質から問い直す問題に対して、「売れる商品をつくる＝ビジネスに活かす」という色メガネでものを見るビジネス的手法では、本当に画期的、革新的な情報を手に入れるのは難しい。

⇒新しい価値を開発するためには、社会に目を向け、どんな観察対象からも何かしらの洞察をくみ取ろうとする姿勢が必要。そこには、「どんな人生にも意味がある」という意識、感覚が基盤にある。

7～9章で感じたこと

1～3章での「問題の発明」という切り口は鋭かったが…
7～9章では、下記項目が目立ち、ちょっと残念！
(B級ねらいの本という断わりはありましたが…)

1. 事実をきちんと確認しないままに、不確かな事実を前提に話が進められている。 
2. 論理構成に曖昧さが見受けられる。 
3. ピンとこない事例、表現がある。 
4. 情報が古いままで、最新情報に更新されずに論理構成上、不都合な部分を切り捨てている？ 

ワイングラスの口がすぼまった本当の理由は？

本書によれば、

①コルク栽培が盛ん→②ワイン栓に採用→③通気性のあるコルク栓によりワインの熟成が進む→④ワインの魅力が、より香りを楽しむものに変化→⑤ワインの成分をグラス中に溜め込ませるグラス形状が必要→⑥ワイングラスの口がすぼまる。

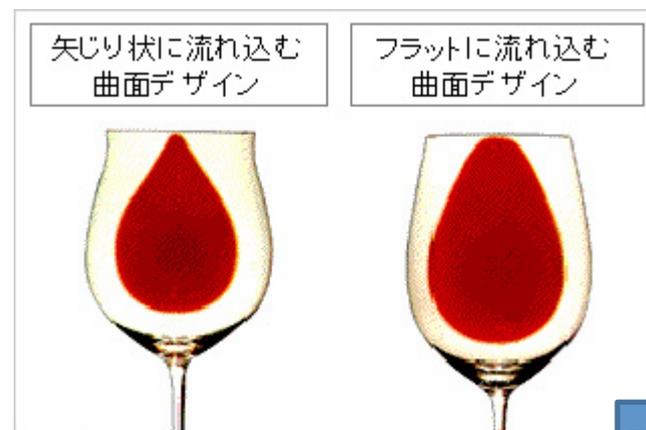
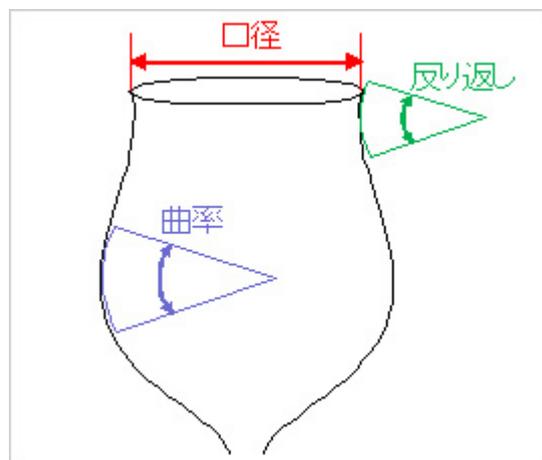
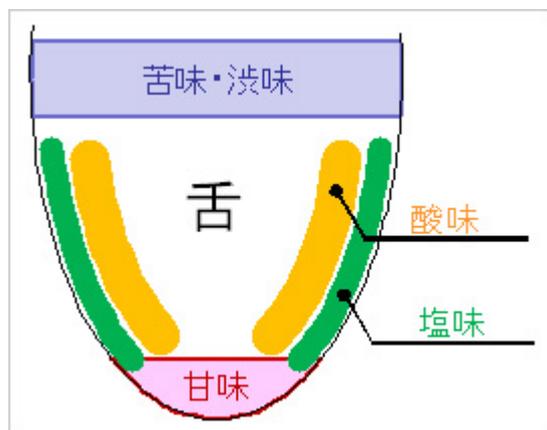
✗ コルク栓には通気性はない！（瓶内でワインの熟成が進むのは正しい）

✗ 洋梨状のフォルムは、香りではなく、味わいを引き出すためのもの

日経BPオンライン:川口盛之助の「ニッポン的ものづくりの起源」(2008年5月12日)

ワイングラスのエンジニアリングは深遠なりオーストリアの老舗リーデルに学ぶものづくり(1)

ワインの歴史は紀元前にまでさかのぼると言われていますが、ワイングラスの定番フォルムの歴史は驚くほど浅く、作り出したデザイナーの名前まで特定できます。1958年にクラウス・リーデルさんという方が偶然に作り上げた奇跡のデザインということが分かっている、実はたかだか50年ほどの歴史しかないのです。



		商品の良さが	
		わかる	わからない
お金が	ある	貴族	成金
	ない	学生	庶民

“商品の良さがわかる”学生は、卒業してお金があると“貴族”になる???
学生がわかる“商品の良さ”は、貴族のそれとは次元が異なる“商品の良さ”では?
⇒ジーンズ、新しい音楽(ジャズ、ビートルズ、…)

ちなみに、正岡子規が「野球」を翻訳したというのは俗説。
「野球」と日本語に訳したのは、第一高等中学校の野球部員であった中馬庚(ちゅうまん かなえ)。「Ball in the field」という言葉をもとに「野球」と命名。



小林一三以外に、優れた文化英雄が日本に存在しないか？
でも、ワトソンは小林一三のような構想家？

日本

渋沢栄一は？

鮎川義介は？

三井高福・岩崎弥太郎・安田善次郎などの明治の財閥創始者は？

文化の構想者について、最初に浮かんだ海外の例

ゼロックス パロアルト研究所

(1970年にアーキテクチャー・オブ・インフォメーションの創出を目標として開設)

【成果】

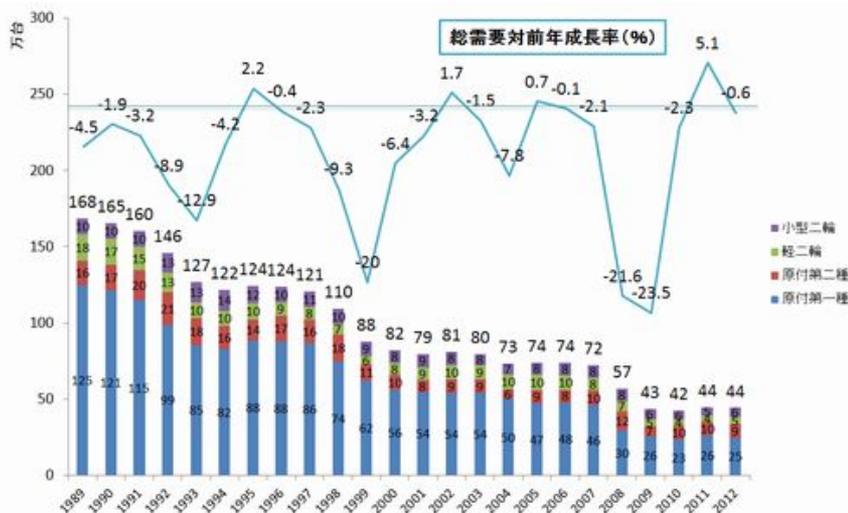
- レーザープリンター
- コンピュータによるビットマップ画像生成
- ウィンドウとアイコンを使ったグラフィカルユーザインタフェース (GUI)
- WYSIWYG方式のテキストエディタ
- Interpress (解像度に依存しないグラフィカルなページ記述言語。PostScriptの原型)
- イーサネット
- Smalltalkとその統合開発環境(オブジェクト指向プログラミング)
- 液晶ディスプレイ
- 光ディスク
- ユビキタスコンピューティング



P248のデータは、08年までしかないが..

- ・国内二輪市場全体の販売台数(→):09年~40数万台で推移
- ・HDの販売台数(↓):11,12年とも12,000台弱(2003年の販売レベルまで急降下)

日本自動車工業会



日本自動車輸入組合

	2012年度(a) (2012.4~2013.3)		2011年度(b) (2011.4~2012.3)	
	台数(a)	シェア%	台数(b)	シェア%
Harley-Davidson	11,908	57.4%	11,609	60.1%
BMW	3,255	15.7%	2,882	14.9%
Ducati	2,499	12.0%	2,144	11.1%

ハーレー08年:15,698台

2009年以降、HDJで何が起きたか？

⇒奥井体制の終焉、HDJ社長の相次ぐ交代

1991.10 奥井俊史氏

2009.2 福森豊樹氏

2009.9 クリスチャン・ウォルターズ氏

2011.12 スチュアート・ファレル氏



END